

第28回 明治大学社会科学研究所シンポジウム 震災がれきとアスベストについて

進行：高山 茂樹（研究推進部部長） 定刻となりましたので、これより第28回明治大学社会科学研究所シンポジウムを開催させていただきます。

私は、本学研究推進部長の高山と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、明治大学駿河台キャンパスにお越しいただき誠にありがとうございます。この建物はリバティタワーと称しまして、23階建ての建物でございます。主に学部学生の授業に使用している教室でございます。土曜・日曜日には、このように公開講座等が行われまして、研究成果等の外部発信に大学として努めているところでございます。もうしばらくいたしますと、学部学生の定期試験そして入学試験もこの教室で行われることとなります。

さて、本日は、本学の基盤研究を支える社会科学研究所が隔年度行っておりますシンポジウムも今回で28回を迎えることができました。皆さまのお手元にございます梗概にもございますとおり、本日は「震災がれきとアスベストについて」をテーマに、第一部として4名の講師の先生方に講演をちょうだいし、第二部ではパネルディスカッションを予定してございます。

なお、お手元のアンケート用紙でございますが、今後の講演企画の参考とさせていただきます。誠に恐縮ですがご退室の際に出口の回収箱にお入れください。

また、ご質問に関しましては質問用紙にご記入ください。第一部の講演が終了した時点で質問用紙を予め回収させていただきます。

それでは、シンポジウムを開催するにあたりまして、明治大学社会科学研究所所長・山田道郎法学部教授がご挨拶申し上げます。

【所長挨拶】 山田 道郎（明治大学社会科学研究所所長・法学部教授）

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました明治大学社会科学研究所所長の山田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。所属は法学部で刑事訴訟法を担当しております。講演に先立ちまして一言ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

まず明治大学社会科学研究所、略して「社研」と申し上げておりますけれども、この社研について簡単にご紹介してから、本日のシンポジウムのお話をさせていただきたいと思っております。

社研は昭和34（1959）年に設立されて、明治大学に所属する社会科学分野の研究者で構成されております。現在所員は300人を超えております。事業内容といたしましては、各種研究助成、講演会、シンポジウムの開催、紀要、年報、叢書の刊行などです。要するに、所員の研究のお手伝いをするのが社研の仕事ということでございます。本日開催するシンポジウムもその事業の一環でございます。特に講演会とシンポジウムは大学における研究の社会還元という意味合いも持っております。

ところで、昨年3月11日に東日本大震災が襲い甚大な被害をもたらし、その被害はまだ十分に回復していません。特に津波によって発生した東京電力福島第一原発からの放射能漏れの影響は今日でも我々の生活にとって大変な脅威となっております。

他方で、この放射能汚染の問題の影に隠れてしまっているもう1つの大きな問題があります。それが本日のシンポジウムのテーマになっているアスベスト問題でございます。震災がれきに含まれたアスベストを吸引することによって中皮腫とか肺がんなどを引き起こす危険があり、これらの病気の発生は数年後になると言われております。実際1995年に発生した阪神淡路大震災後のがれき撤去作業に3年間携わった後に2011年に中皮腫で死亡した男性に労災認定がされたという新聞報道がされております。被害はさらに拡大する可能性があるとも言われております。また、昨年の東日本大震災の被災地でいった厚生労働省と環境省の調査結果も新聞報道されております。そのうち最も多くのアスベスト飛散が認められたのは仙台市のホテルで、そこでは飛散を防ぐための措置をとらずに外壁を壊す工事を行ったとされております。

本日は、いろいろな関連分野の先生方にお集まりいただき、震災がれきとアスベストをめぐる諸問題をいろいろな角度からお話しいただき、この問題にどう対処すべきかを論じていただく予定でございます。

詳細はパンフレット等にかかれた梗概を参考にしてください。あまり大きく取り上げられていないけれども、大変重大な問題について、皆さんと一緒に拝聴したいと考えております。

以上で私の挨拶を終わりますが、皆さんにとって、この社研のシンポジウムが震災にかかわるいろいろな問題を考え直すきっかけとなることを願っております。どうもありがとうございました。

進行 それではこれより社会科学研究所シンポジウムを開催いたします。司会は、本学国際日本学部教授の小笠原泰が務めます。小笠原教授は、本年度、社会科学研究所運営委員であり、講演会シンポジウム準備委員会委員長でございます。それでは小笠原先生、よろしく願いいたします。

【司会者挨拶・講演者紹介】 小笠原 泰（明治大学国際日本学部教授）

ただいまご紹介にあずかりました小笠原でございます。本日は、よろしく願いいたします。

本日のシンポジウムのテーマは「アスベスト」です。実は、これは、すごく身近な題材なのですが、あまり大きく取り上げられることがありません。本日は、このギャップに関するお話をぜひさせていただければと思っております。本日、4人の先生方にご登壇をいただくのですが、大学という公的・オープンかつ研究というベースを念頭に置きまして、基本的に多面的かつ中立的に、この議論を進めていきたいと思っております。

「アスベスト」というテーマに対するアプローチとして、一つ目に、実際にどういう形で調査がなされているのかという観点があります。二つ目には、医学的・疫学的な観点があります。三つ目には、実際にデータがどのようにとれるのかという現実的な問題があります。そして、最後は、国家の責任です。これは阪神淡路大震災のときで、すでにご存じかもしれませんが、かなり大きなインパクトがあるものです。国が積極的に関与していないものでも、国の責任になることもあるという意味では法的な観点からお話をさせていただければと思っています。それでは、4人の先生方にご登壇をいただきたいと思います。

今日ご登壇いただきます4人の先生方をご登壇の順番でご紹介させていただきます。

特定非営利活動法人（NPO）東京労働安全衛生センターの外山尚紀先生です。

中皮腫・じん肺・アスベストセンター代表の名取雄司先生です。

環境管理センター技術本部の豊口敏之先生です。

東京駿河台法律事務所の小島延夫先生です。

それではプレゼンテーションに入っていきたいと思いますので、1番バッターということで外山先生、よろしく願いいたします。